

財団設立30周年を迎えて

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 理事長
三菱ケミカル株式会社 シニアエグゼクティブコンサルタント

石塚 博昭



ダイヤ高齢社会研究財団（以下「ダイヤ財団」といいます。）は、2023年度に設立30周年を迎えることができました。これもひとえに関係各位のご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

ダイヤ財団は、三菱グループ29社により、1993年6月18日に文京区本郷を拠点に「財団法人ダイヤ高齢社会研究財団」として設立されました。その後1996年に東京都町田市に「町田研究分室」を開設し、2010年の公益財団法人認定を機に文京区本郷の本部と町田研究分室を統合し新宿に移転、現在に至ります。この間、ダイヤ財団では、設立当初から「しあわせで活力ある長寿社会」の実現に向けて、様々な研究・調査を行ってまいりました。

総務省人口推計によると、財団設立当時（1993年10月1日現在）のわが国の65歳以上人口は1,690万人、総人口に占める割合（高齢化率）は13.5%と、世はまさに高齢化社会から高齢社会へ移行しようとする時期でした。今や（2023年5月1日現在）65歳以上人口は3,621万人、高齢化率は実に29.1%と、この30年で世界に類を見ない超高齢社会となっており、今後も高齢化率は上昇が続くと見込まれています。

高齢社会対策大綱において、「65歳以上を一律に『高齢者』と見る一般的な傾向は、現状に照らせばもはや現実的なものではなくなりつつある。」とされるように、65歳以上であっても、70歳やそれ以降でも、一人ひとりの意欲・能力に応じて力を発揮し、地域・社会を支えていくことが望まれます。

一方で、高齢期は健康状態・身体機能の衰えにより、支えが必要な人が増えていくのも事実です。支えが必要な人たちの、だれがどう支えていくか、これも重要な課題です。

こうした支える、支えられるという関係は何も高齢者に限った話ではありません。全ての年齢の人々が支えあいながら、自分らしく生きることができる環境をつくり、全ての世代が満ち足りた人生を送ることのできる社会をつくりたいと願っています。

ダイヤ財団は、営利事業ではない純粋な研究財団として、行政・学会・産業界・民間諸団体ならびに高齢者の方々との連携を深めつつ、これまでの蓄積・特色を生かした調査研究活動を進め、その成果の発信と社会実装を通じて社会貢献してまいり所存です。皆様におかれましては、引続きダイヤ財団をお引き立て下さいますようお願いいたします。